

## プロフィール

民間企業で国際営業を勤めた後、青年海外協力隊の村落開発普及員としてルワンダに赴任。大学院で国際平和学修士を取得。その間、ニカ国の大統領選挙監視活動、コンゴ民主共和国のカリタスで働く。HPC の国内研修後、東日本大震災支援活動に関わる。海外研修では UNDP ハイチで紛争予防と社会統合の合同事業に暴力軽減コミュニティー・アドバイザーとして従事。現在は JICA ハイチフィールドオフィスで企画調査員として働いています。

### 1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

国際協力に興味を持つようになったきっかけは、UNV を通してカンボジアで選挙教育に従事した方の国際協力に対する姿勢を知った時からでした。自然に UNV に関心を持ち、ロスター登録をしていました。しかし、自分の思っているような職種の話がきませんでした。そんな時、HPC 元研修生より、HPC の事業は自分の希望を叶える形で UNV に派遣されるということを知り、ぜひ応募しようと思いました。実際に、私の希望は、「フランス語業務、PKO 関連、コミュニティにおける紛争予防と社会統合」だったので、私の希望を全て満たす形で派遣が決まりました。

### 2. 国内研修の感想は？

様々な国際協力分野で働く第一線の講師陣から実務についてのお話や、プロポーザルの書き方を学ぶことができたためになりました。実際にハイチでプロポーザルを作成する機会が多々あり、国内研修でまさに学んだことを実践することができました。

また、シュミレーションゲームをしながら、国際機関、NGO、PKO との連携調整を考える機会を得たことは、様々な組織の独特のアプローチや相乗効果の得る連携について考えることができました。ハイチの現場ではさらに一筋縄ではいかない政治的な視点が根強くあることに気付かされましたが、コーディネーションの理想のイメージを掴んでいたことで、他組織との連携作業をする際には臆せず臨むことができました。

そして何よりも平和構築に関心のある研修員が集い、6週間みっちり缶詰になって、共同生活をするのもよかったです。料理、ジョギング、ヨガなどをしながら、経験や悩みなどを分かち合うことで、とてもよい仲間がたくさんできました。

### 3. 海外実務研修での活動について教えてください。

海外研修で所属していた「紛争予防と社会統合のための合同事業」はハイチのコミュニティにおける犯罪や暴力問題に対処するために、持続的開発に必要な現地のオーナーシップを高めながら、紛争を予防し社会の一体性を形成していくことを目的として行われています。このプロ

グラムは、UNDP のガバナンスユニットの法の統治セクションの中にあります。主な柱は、① 国の暴力や犯罪に関する研究機関の能力強化、②社会経済的活動、③コミュニティや政府の能力強化、です。これら全てにおいて他国際機関と連携することになっており、UNDP がリードをとりながら、IOM, UNFPA, UN Women、UNESCO と合同事業を促進し、相乗効果のあるプロジェクトを計画実施していきました。

上記に挙げた①、②、③の活動のうち、①は、ハイチにおける暴力と犯罪に関するデータが脆弱なことから、それを補完強化するためにデータ収集（アンケート調査など）を5つのプロジェクト対象地域において実施するものです。②は、社会経済的に弱者（特に若年層、女性）を現金収入向上活動や啓発活動を通してエンパワメントしていくものです。③ は、コミュニティや政府の能力強化を目的に、彼らに紛争解決のトレーニングを実施したり、紛争予防や社会統合を取り入れた政策立案のサポートをしていくものです。

私は、主に以下6つのプロジェクトに関わりました。

1. 2010年1月の地震の震源地であるレオガンにおけるスポーツ施設の復旧活動。復旧後は、若年層の動員をしながら、紛争解決の訓練や啓発活動をすることで、地震後のコミュニティの活性化や能力強化を図るもの。



【地震で壊れた大統領府の取り壊し作業】

2. IDP キャンプ内や周辺における弱者（寡婦や若年層）を対象にした、起業促進やマイクロクレジットを通して、弱者の社会経済的な地位向上を図るもの。

3. HIV、SGBV、社会的差別に関するトレーニング。UNDP のプロジェクトチーフ、首都圏の生計向上をメインとして活動する NGO 団体、UNDP 全職員を対象にしたもの。

4. MDGs（ミレニアム開発目標）の啓発活動の一つとして、11月25日の「女性に対する暴力撤廃の国際デー」や3月8日の「国際女性の日」におけるキャンペーンイベント。

5. キャンプの中や周辺地域における社会的弱者の地位向上やコミュニティの経済活性化をするために、職業訓練実施とその後の訓練生を受け入れる企業のマッチングサポート。

6. 情報収集と分析をし、それを国立の犯罪と暴力の研究機関に共有する。また、その研究機関のプラットフォーム作りのサポート。

#### 4. 海外実務研修の感想は？一番印象に残っていることは

私はルワンダの水と電気のないような村で生活をしてきたり、コンゴでは身をもって危険を感じる場面に多数遭遇したりしましたが、ハイチの生活は違う種類のタフさを鍛えた場所でした。全ての行動に制限があり、車がなければ買い物にも息抜きに運動をすることもできません。業務は文書作成も含め全てフランス語で行い、多国籍の職場だったので計画なし&打ち合わせなしの仕事の仕方にカルチャーショックを受けることも多々ありました。合同事業だったため様々な国際機関をまとめることは一筋縄ではいきませんでしたし、政府との話し合いもこう着状態が続きプロジェクトが中々前進することができませんでした。

その中で、ハウスメート、同僚、ハイチのカウンターパートなど本当に素晴らしい出会いがありました。彼らは「ハイチに対して自分が何をできるか」という原点の質問に私を常に引き戻してくれました。

その質問は UNDP で働きながらも、自主的に動こうという姿勢を持つことができました。地方 NGO が育っていないハイチにおいて、地方のカウンターパートの能力強化をしに、自発的に出張を組んで、プロポーザルや予算書の作成方法を教え、プロジェクトのフォローアップを実施したこともあります。カウンターパートのモチベーションが上がり、プロジェクトを無事終えるのを見届けることができたのは本当にやりがいがありました。このような自主的で柔軟な発想に立った仕事のやり方を教えてくれた同僚に本当に感謝をしています。

このような様々な制約がある国においてプロジェクトを遂行していくためには、行動力を起こし色々な人を巻き込んでいく必要があります。そのために、熱い心を保つ姿勢と、その行動を現実的にするための柔軟な発想が必要なのだと感じました。柔軟な発想は、様々な人と隔たりなく話をし情報収集し分析をしながら育てていくものなのだということを学びました。



【地方へ出張】

#### 5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

一年ぐらいハイチ政府と日本政府と共に働きながら、地元や他国のリソースを活用し、ハイチの復興・開発のあらゆる可能性を探りたいと思っています。中期的には専門家として紛争や災害の影響地域において、都市・地方開発のマスタープラン作成等に従事したいです。将来は相手国政府と一緒に平和構築の政策作りに携わりたいです。場所はアフリカのフランス語圏に強い興味を持っています。

## 6. 平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

HPCは私を人間的に大きく成長させてくれました。自分が希望した場所へ、希望する職種に派遣して下さるので、今後の自分が築いていきたいキャリアを切り開いてくださいました。このHPCの海外研修業務を通して、今まで平和構築分野の自分のキャリアについて抱いていたイメージから、さらに具体的に描くことができるようになりました。やりたいとイメージしていた多数の点が結ばれ、面になった感じです。

また、HPCの平和構築のネットワークは広く、ハイチだけでもHPCの元研修生や現役研修生が私を含め4人います。ハイチ国連の敷地内でHPCの講師とばったりお会いすることもありました。まだ面識のないHPCの元研修生や講師などにも連絡を取り、アドバイスを頂くことも多々ありました。HPCの同期は、同じような状況にいるため、様々なことを話し共有できる仲間です。このようなHPCを通じた人的ネットワークは、自分の道を押し進んでいく上で、既に貴重な宝物となっています。

HPCに参加を考えている方、平和構築は現場に行かないと掴むことのできないコンセプトだと思うので、まず参加してみて考えるというのも手です。現場では何事も主体的に動くことで物事が大きく好転していくと思います。そのためには自分で目標を設定し、常に追いつける姿勢が大事です。まだイメージは掴めなくても、ある程度目標を持って参加されるといいと思います。